

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4092100041
法人名	医療法人 社団 親和会
事業所名	医療法人 社団 親和会 グループホーム つつじの丘
所在地	福岡県嘉麻市牛隈2510番地98号 電話 0948-57-4150

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号		
訪問調査日	平成22年2月27日	評価確定日	平成22年3月11日

【情報提供項目より】(平成 22 年 2 月 8 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 21 年 7 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	15.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含)	有(無) 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
又は1日1,000円			

(4) 利用者の概要(2月8日現在)

登録人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	6	要介護2	4		
要介護3	2	要介護4	4		
要介護5					
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 92 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	嘉麻赤十字病院 医療法人社団親和会共立病院 佐々木歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームつつじの丘は新興住宅地の一角にある2ユニットのホームである。昨年7月、医療法人社団親和会が運営法人となり、地域密着型サービスの方針に沿った運営理念を創り、新たな歩みを始めている。医療機関からの入居者も多く、居宅療養管理指導契約書を取り交わし、定期的な医師の訪問で健康を管理したり、緊急時に迅速に対応している。「生活する方達とその家族の思いを大切に、ゆっくりのんびりそっと寄り添う」との理念を日々具現化するために、帰宅したいとの思いに沿うためにお寺参りに同行したり、草取り等の土いじりを支援したり、全職員で智慧や工夫を話し合っている。昨年発足した自治会に加入し、夏祭りや敬老会の様子、消防署指導による防火避難訓練、小学校の七夕集会の参加等の地域との交流状況を定期的に発行しているつつじの丘新聞に掲載し、地域や郵便局、市役所に配布している。今後は地区自治会や運営推進会議で地域の理解や協力をお願いしながら、運営理念の更なる具現化への取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営法人が昨年替わっているが、前回外部評価結果を検討し、目標達成計画を作成している。地域密着型サービスの方針を運営理念に明確に掲げ、ホーム行事等を掲載した新聞を家族や地域等に発行したり、年間研修計画の作成、自治会加入、家族会の発足等で実践や運営に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員各自で自己評価を行い、管理者や介護計画作成担当者でまとめている。自己評価を行うことで、業務のあり方を考えるきっかけになり、気付き等を話し合う機会になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議実施要領を整備し、民生委員、市担当者、家族等の参加で開催し、会議録を整備している。インフルエンザ流行の時期は感染や蔓延を防止するために、ホーム職員と入居者で会議を開催し入浴回数等の率直な意見があった。会議内容は家族や市担当者に連絡している。会議では、ホーム行事等を報告し、参加者から花見の場所の情報があった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族が来訪した折に入居者の心身の状況を説明しているが、連絡を密にするために、連絡帳を居室に整備し、担当職員等が入居者の状況や連絡事項を記載したり、家族に希望や連絡事項の記載をお願いしている。発行しているつつじの丘新聞を家族に発行し、入居者の様子やホーム行事報告を報告している。また、玄関前の廊下に見学したひな祭りの様子や入居者がお雛さまに扮したスナップ等が掲示されている。運営医療法人による居宅療養管理やかかりつけ医受診状況は随時家族に報告し、記録を整備している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年夏発足した自治会に加入し、回ってくる回覧板で地域の情報を得たり、ホーム行事等を案内している。昨年の夏まつりは、家族や地域の方々の参加で盛況であった。発行しているつつじの丘新聞にホーム行事、小学校の七夕祭り参加や消防署の協力での防火避難訓練状況を掲載し、地域住民や郵便局、市役所に配布している。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの方針を運営規程、重要事項説明書に明記し、「家族の思いを大切にし、その人らしい人生が継続できるように、地域の人々と交流を図りながら、ゆっくり、のんびり、そっと寄り添い、安全、安心、安楽なサービスを提供します。」を基本理念に掲げ、共用空間に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員で、理念を具現化するための方針を創っている。毎月のミーティング等や日々のケアで、その都度理念の意識づけに努めている。介護計画にも理念に謳っているその人らしい生活支援を位置づけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年夏発足した自治会に加入し、回ってくる回覧板で地域の情報を得たり、ホーム行事等を案内している。昨年の夏まつりは、家族や地域の方々の参加で盛況であった。発行しているつつじの丘新聞にホーム行事、小学校の七夕祭り参加や消防署の協力での防火避難訓練状況を掲載し、地域住民や郵便局、市役所に配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営法人が昨年替わっているが、前回外部評価結果を検討し、目標達成計画を作成している。地域密着型サービスの方針を運営理念に明確に掲げ、ホーム行事等を掲載した新聞を家族や地域等に発行したり、年間研修計画の作成、自治会加入、家族会の発足等で実践や運営に取り組んでいる。職員各自で自己評価を行い、管理者や介護計画作成担当者でまとめている。自己評価を行うことで、業務のあり方を考えるきっかけになり、気付き等を話し合う機会になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要領を整備し、民生委員、市担当者、家族等の参加で開催し、会議録を整備している。インフルエンザ流行の時期は感染や蔓延を防止するために、ホーム職員と入居者で会議を開催している。入居者から入浴回数等の率直な意見があり、会議内容は家族や市担当者に連絡している。会議では、ホーム行事等を報告し、参加者から花見の場所の情報があつた。	○	昨年自治会は発足しているのので、地域代表の会議参加でより充実した運営推進会議を期待します。また、ホームの機能や人材を社会資源として地域に還元する提案も併せてお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	スプリンクラー設置申請に、出向き次年度設置予定になっている。運営法人が替わったことから、ホーム運営や外部評価の受審について相談したり、情報を交換している。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	ホーム代表が制度等の研修会に参加し、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業に関するパンフレット等を整備し、ホーム内に掲示しているが、制度活用は現在まではない。	○	入居時や随時制度等を説明し、経過等の記録の整備をお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した折に入居者の心身の状況を説明しているが、連絡を密にするために、連絡帳を居室に整備し、担当職員等が入居者の状況や連絡事項を記載したり、家族に希望や連絡事項の記載をお願いしている。発行しているつつじの丘新聞を家族に発行し、入居者の様子やホーム行事を報告している。また、玄関前の廊下に見学したひな祭りの様子や入居者がお雛さまに扮したスナップ等が掲示されている。運営医療法人による居宅療養管理やかかりつけ医受診状況は随時家族に報告し、記録を整備している。預かり金はない。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に行政機関やホームの意見苦情窓口を明記している。ユニット毎の玄関に意見箱を設置し、廊下に介護サービスの意見や苦情の問い合わせ窓口のポスターを掲示している。家族会を夏祭り、敬老会、クリスマス会後に開催し、意見を伺う機会を設けている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人の変更に伴い、新規職員を雇用し、担当制にすることで、入居者と馴染みの関係づくりをしている。また、系列グループホームの管理者が異動していることから、認知症及び認知症ケアについてその都度職員に周知している。必要な時間帯に職員を確保し、職員の希望に沿った勤務調整に努め、働き続けられるように配慮し、離職を防いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員はハローワークで求人しているが、系列ホームからの異動もある。雇用契約書やサービス規程を整備し、定期健康診断や年次有給休暇の取得を支援している。職員のロッカー等が整備された事務室で休息できるが、入居者の状況に応じて昼休みを取っている。親睦会等で、職員間の交流やストレス解消に努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権教育研修に参加し、参加者の研修報告を回覧している。月1回のカンファレンス時の勉強会で介護時の対応や言葉かけの注意を管理者が指導している。身体拘束のマニュアルと、やむを得ず拘束する場合のマニュアルも整備しているが、高齢者虐待防止に関するマニュアルが無い。	○	さらなる人権教育・啓発として、高齢者虐待防止マニュアルの整備、研修実施や実施録の整備をお願いしたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	加入している福岡県高齢者グループホーム協議会の研修を活用しながら、新任・現任研修計画を作成し、計画に沿った研修を予定している。職員の段階に沿って、認知症実践者研修やリーダー研修、業務改善研修に参加し、研修内容を回覧している。職員の悩みは管理者が相談に応じている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、研修等に参加している。系列グループホームが他市にあり、管理者が異動しているので情報交換がしやすい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりの支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>医療機関からの入居が多い。必要に応じて、自宅や病院に管理者が訪問し、入居希望者や家族、かかりつけ医から情報や意見を聞きいている。入居前に、本人、家族にホームの見学を勧め、入居者と一緒にお茶や食事を共にして、本人の理解を得るよう配慮している。入居当初は家族と連携を密にし訪問をお願いしたりしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々のケアの中で入居者から「ありがとう」と感謝を述べられたり、食事づくりに「今日は大変やったね」と労いの言葉があり、寄り添うケアの実践とともに支えあう関係を作りつつある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>東京センター方式で入居者の生活歴、職歴、できること・できないこと、わたしの思いをアセスメントしている。アセスメントした希望や意向に沿ったケアを介護計画に記載している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画に入居者や家族の意向を記載している。担当者会議を開催しているが、入居者の希望や意向、家族の意向を話し合った記録がない。作成した介護計画は入居者や家族に説明し、同意を得ている。</p>	○	<p>入居者や家族の意向は十分に把握しているので、話し合いの内容を記録することで、さらなる介護計画の共有を期待します。また、整備したモニタリング表を活用することで、さらなる気付きを期待します。</p>
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>担当者会議及び評価表を活用し、課題毎に担当者がサービス提供や目標達成状況をモニタリングし、介護作成担当者が計画を評価している。3ヶ月毎に計画を見直し、体調の変化がある場合はその都度計画を見直している。見直した介護計画は入居者や家族に説明して同意を得ている。排泄を誘導していた入居者は誘導の必要がなくなり、介護計画を変更している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の親族との会食場所まで送迎したり、家族との外出を支援している。帰宅願望の強い入居者の思いに沿うために、ドライブしたりお寺に同行したりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療法人からの居宅療養管理指導や専門医や受診を支援し、健康を管理している。入居前からのかかりつけ医の定期受診は、家族に同行をお願いしている。管理者が看護師であることから、医療との連携が取りやすい。緊急時の対応手順を整備し、容態の急変に迅速に対応している。受診内容は家族に随時連絡している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の容態が重度化した場合における対応の指針を整備し、看取りについても明記している。入居時に説明し、書面で入居者の同意を得ている。現在のところ重度化や終末期の入居者はなく、母体医療法人での看取りを予定している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱い、利用目的を明記した書面を整備し、入居者や家族と取り交わしているが、個人情報に関する規程や利用目的を掲示している。勤務規程に職員の守秘義務を明記し、職員と誓約書を取り交わしている。職員の入居者への声かけや対応は穏やかである。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、入居者のペースで起床したりしている。担当制であるため、入居者の状況は充分把握されている。好みの新聞の購読や、洋服を選んでもらったり、買い物の同行や近隣の散歩など、入居者のその人らしい暮らし方やこだわりを尊重し支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のADLや相性等に配慮してテーブルを分け、職員も同じ食事をしながら見守りや介助をしている。ランチマットが敷かれ、自前の箸や湯のみ等を使いながら食事を楽しんでいる。下げ膳する入居者もある。クリスマスやお正月ではケーキやおせち料理・お屠蘇をいただくなど、行事食も楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はいつでも準備され、体調に問題なければ希望者は毎日入浴できる。プライバシーを配慮し、一人ずつ入浴を支援している。入浴拒否には無理強いせず、職員が替わったり、時間をずらして支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者はこれまで読んでいた新聞を購読し、将棋をさすなど今までの暮らしを継続している。入居後に始めたぬり絵や貼り絵が生き甲斐になった入居者には、作品に合わせた額縁の購入や作品展示を支援したり、園芸や土いじりが好きな入居者には、花や野菜の栽培やミニ菜園でサラダ菜や大根、ネギ、ホーレン草の手入れ等を支援したりしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間計画を作成し、季節の花見や紅葉がり、初詣、七夕祭やひな祭り等の見物等に、弁当持参で出かけたり、天候に合わせて近場の梅林公園などに、入居者2名ずつの外出を支援したりしている。買い物の同行や近隣の散歩、家族との外出などいつでも出来るように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため夜間のみ施錠し、日中は玄関のセンサーや職員の見守りで対応している。外出傾向にある入居者の帰宅願望を配慮し、お寺参りに同行したり、思いに寄り添うケアを実践している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルや連絡網を整備している。消防署の協力で防火避難訓練を、近隣にお知らせして実施している。その様子をつつじの丘新聞に掲載し、地域に配布している。スプリンクラーは平成22年度設置予定で、消火器を整備している。食材は業者が納入しているため、食品の備蓄はない。	○	昨今の自然災害状況から、夜間を想定した訓練の実施や飲料水や食料品等の備蓄をお願いしたい。また、管理者が看護師であるので、AEDや救急法の学習会の開催を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材納入の業者によるカロリーや栄養バランスを考慮した献立で、おおよそ1400 Kcalの摂取を支援している。毎日の食事や水分摂取量を把握し、既往症に応じた摂取量を支援している、体重測定は毎月1回実施しているが、特に食事制限の必要な入居者は、摂取量をチェックし、週3回体重測定をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット毎にスロープつきの玄関が設置されている。廊下には季節柄お雛様が飾られ、観葉植物が置かれている。各ユニットの間のウッドデッキはプランターでチューリップが可憐な花を咲かせ、喫煙所を設けている。共用空間にも布製のお雛様の貼り絵が大きく掲示され、華やかな雰囲気である。共用空間の出窓の前に椅子が設置されたり、一角には掘りごたつのある畳の間やソファが置かれ、中央に食卓や椅子が置かれている。ウッドデッキ前に洗面所や浴室、トイレがあるが、換気や空調に配慮している。入居者は畳の間の上がり口に腰掛け職員と洗濯ものを畳んだり、食卓で職員と談笑したりしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室入り口引き戸には表札と目印の顔写真が掛けられている。広い窓から日が差し込みカーテンで調整している。各居室にベットや押入れを設置しているが、ADLに配慮し電動ベットも設置している。タンスやイス等の日常品ばかりでなく、位牌や仏壇を持ちこみ、礼拝等をしている入居者もいる。家族の写真や塗り絵・折紙等の手作りの作品を壁に掲示したり、家族の折った千羽鶴を飾るなど、それぞれの入居者に合わせた居室づくりがある。		